

小集会プログラム 2022年3月21日(月)15:00~17:00

A会場	B会場	C会場	D会場
<p>W11 殺虫剤抵抗性リスクコミュニケーション2022(アザミウマ類における殺虫剤抵抗性管理の実践)</p>	<p>W12 第1回昆虫食マンダラ</p>	<p>W13 第2回 社会性昆虫研究会:ミクロな視点から紐解く社会的行動・分業の進化</p>	<p>W14 海外飛来性害虫に対する『網羅的』シーケンス解析から見えることーミカンコミバエ種群を例にー</p>
<p>W1101 ○窪田 直也¹、高木 素紀²、草野 尚雄³、上樂 明也⁴、小河原 孝司¹ (1. 茨城農総セ園研、2. 茨城銚田普及セ、3. 茨城農総セ、4. 農研機構生物機能部門) 茨城県におけるネギアザミウマの薬剤感受性と防除体系の検討</p> <p>W1102 ○相澤 美里¹、佃 晋太郎²、前田 京子¹、上樂 明也³、渡邊 丈夫⁴、園田 昌司⁵ (1. 香川防除所、2. 香川農試、3. 農研機構・生物機能、4. JA香川県、5. 宇都宮大学) 香川県におけるネギアザミウマの生殖系統の発生状況と薬剤感受性について</p> <p>W1103 ○山本 敦司^{1,5}、窪田 直也²、相澤 美里³、土井 誠^{4,5} (1. 日本曹達株、2. 茨城農総セ園研、3. 香川防除所、4. 静岡農林研、5. 農林害虫防除研究会)ネギアザミウマの殺虫剤抵抗性リスク評価表</p>	<p>W1201 ○松浦 健二¹ (1. 京都大学大学院農学研究科) シロアリの破壊的木材分解能力を用いた未利用木材の飼料化と食料化</p> <p>W1202 ○管原 亮平¹ (1. 弘前大学・農生) トノサマバッタの昆虫食利用～HIROSAKI通信</p> <p>W1203 ○早川 翔大¹、片岡 孝介²、阿左美 優花¹、由良 敬^{1,3}、鈴木 丈詞⁴、朝日 透^{1,2} (1. 早稲田大院・先進理工、2. 早稲田大・総合研究機構、3. お茶の水女子大・ライフサイエンス、4. 農工大・BASE) コオロギの社会実装に向けた学際的研究</p> <p>W1204 ○佐伯 真二郎¹、石塚 貴章²、佐藤 優²、浦部 大策³ (1. NPO法人食用昆虫科学研究会、2. 特定非営利活動法人ISAPH、3. 聖マリア病院国際事業部) 潜在資源を倫理的に開発する意義と利点ーラオスの昆虫食と保健栄養NGOの現場からー</p>	<p>W1301 ○小西 堯生¹、田崎 英祐¹、高田 守¹、松浦 健二¹ (1. 京大院・農・昆虫生態) シロアリにおける繁殖分業に基づいた社会集団レベルの尿酸代謝システム</p> <p>W1302 ○矢口 甫¹、前川 清人² (1. 関西学院大学・理工学部、2. 富山大学・学術研究部理学系) シロアリにおける繁殖分業の進化に伴うビテロジェニン遺伝子の機能分化</p> <p>W1303 ○藤岡 春菜¹ (1. 岡山大学) 膜翅目における栄養交換の進化</p> <p>W1304 ○植松 圭吾¹ (1. 慶應義塾大学) 社会性アブラムシにおける不妊兵隊の進化的起源:ミクロな視点の重要性</p>	<p>W1401 ○神村 学¹ (1. 農研機構生物研) ミカンコミバエ種群の次世代シーケンス解析からわかること</p> <p>W1402 ○楠本 みさき¹ (1. 沖縄県病害虫防除技術センター) 沖縄県におけるミカンコミバエ種群対策と2021年度の侵入状況</p> <p>W1403 ○本間 淳^{1,2,3} (1. 琉球産経株式会社、2. 沖縄病害虫防技セ、3. 琉球大学・農学部) ミカンコミバエ種群侵入個体サンプルのDNA配列から推測する侵入パターンとその変化</p>

小集会プログラム 2022年3月21日(月)15:00~17:00

E会場	F会場	G会場
<p>W15 カイコ・野蚕のバイオリソースを支えるNBRPの活動と今後の展望</p>		
<p>W1501 ○伴野 豊¹、藤井 告¹、福森 寿善¹、梶浦 善太²、嶋田 透³ (1. 九州大学、2. 信州大学、3. 学習院大学) NBRPにおけるカイコ・野蚕リソース提供事業の現状と展望</p> <p>W1502 ○藤井 告¹、福森 寿善¹、山本 和典¹、田村 圭¹、西川 和弘¹、伴野 豊¹ (1. 九大院農)第4期NBRPカイコにおけるリソースの利用と収集-具体例の紹介-</p> <p>W1503 ○梶浦 善太¹ (1. 信州大学繊維学部)カイコに近縁な野蚕(ヤママユガ科)の利活用</p>		

小集会プログラム 2022年3月22日(火)15:00~17:00

A会場	B会場	C会場	D会場
<p>W21 第29回日本ICIPE協会研究報告会ーアフリカ昆虫学のタベ</p>	<p>W22 ダニ研究オムニバースーハダニからマダニまで、生理学的研究を中心にー</p>	<p>W23 応用昆虫学の新しいチャレンジ:腐食性昆虫で世界は変わる</p>	<p>W24 第4回イモゾウムシ研究会～津堅島アリモドキゾウムシ根絶記念SP～</p>
<p>W2101 ○野中 健一¹ (1. 立教大学) 南部アフリカの多様な昆虫利用</p> <p>W2102 ○山科 千里¹ (1. 筑波大学・生命環境系 (日本学術振興会特別研究員) アフリカのサバンナ生態系においてシロアリ塚が生み出す生物多様性と生態系サービス</p> <p>W2103 ○前野 浩太郎¹ (1. 国際農林水産業研究センター) サバクトビバッタに関する問題とその対策</p>	<p>W2201 ○DeMar Taylor¹ (1. 筑波大学・生命環境系) Regulation of Reproduction and Immunity in the Soft Tick <i>Ornithodoros moubata</i></p> <p>W2202 ○鈴木 丈詞¹ (1. 農工大・BASE) ハダニ防除とカブリダニ強化に向けた生理学的研究</p> <p>W2203 ○八田 岳士¹、川田 逸人¹、辻 尚利¹ (1. 北里大学・医学部) 宿主皮下微小環境を変容するマダニ唾液分子</p> <p>W2203 ○荻原 麻理¹、Taylor DeMar²、片岡 宏誌³ (1. 農研機構畜産研究部門、2. 筑波大学大学院 生命環境科学研究科、3. 東京大学大学院 新領域創成科学研究科) ダニ類の脂溶性ホルモンーダニ類のエクジステロイド生合成の保存性を考えるー</p>	<p>W2301 ○安田 哲也¹ (1. 農研機構)腐食性昆虫利用の背景</p> <p>W2302 ○生田 和正¹ (1. 国立研究開発法人 水産研究・教育機構) アメリカミズアブのタンパク質を活用した水産養殖飼料の開発</p> <p>W2303 ○森岡 伸介¹、丸井 淳一郎² (1. 国際農林水産業研究センター 水産領域、2. 国際農林水産業研究センター 生物資源・利用領域) 開発途上国でのアメリカミズアブ幼虫の養魚飼料適用:ラオスでの事例紹介</p> <p>W2304 ○瀬山 智博¹、平康 博章¹、大福 高史¹、山本 圭吾¹ (1. 大阪環農水研) 国内のアメリカミズアブ生産原料(食品残渣など)の課題と展望</p> <p>W2305 ○霜田 政美¹、成耆 鉉²、劉 家銘²、上原 拓也²、大木 碩仁³、古川 誠一³ (1. 東京大学農学生命、2. 農研機構生物機能、3. 筑波大学生命環境) 腐食性昆虫を用いたリサイクルの技術的課題について</p>	<p>W2401 ○日室 千尋^{1,2} (1. 沖縄県病害虫防除技術センター、2. 琉球大学・農学部) 昨年、不妊虫放飼法を用いて沖縄県津堅島で根絶されたアリモドキゾウムシって何?</p> <p>W2402 ○河村 太¹ (1. 沖縄防技セ) 津堅島におけるアリモドキゾウムシの根絶達成</p> <p>W2403 ○池川 雄亮¹ (1. 琉球産経(株)) アリモドキゾウムシ根絶後の再発生警戒とイモゾウムシの根絶に向けて</p>

小集会プログラム 2022年3月22日(火)15:00~17:00

E会場	F会場	G会場
<p>W25 昆虫データベースの現状と今後の展開～DX化にむけて～(九州大学昆虫科学・新産業創生研究センター主催)</p>	<p>W26 Chemical ecology of interactions among insects, and environments (昆虫、植物、環境をめぐる相互作用の化学生態学)</p>	<p>W27 みどりの食料システム戦略時代の土着天敵活用: ウンカシヘンチュウ(AU)の地域循環的利用の可能性を探る</p>
<p>W2501 ○広渡 俊哉^{1,2}、屋宜 禎央^{1,2}、小川 浩太^{3,2} (1. 九大院・農・昆虫、2. 昆虫科学・新産業創生研究センター、3. 九大院・比文・生物) 昆虫データベースの構築時・運営時に直面する問題の解決にむけて: データベース小集会の主旨説明に代えて</p> <p>W2502 ○神保 宇嗣¹ (1. 国立科博・標本資料セ) 日本の昆虫データベースの現状と課題</p> <p>W2503 ○丸山 宗利¹、伊藤 泰弘¹ (1. 九州大学総合研究博物館) 九州大学総合研究博物館の昆虫データベース</p> <p>W2504 ○矢後 勝也¹ (1. 東京大学・総研博) 大学博物館での標本データベース構築と公開発信ー東京大学と海外の事例からー</p> <p>W2505 ○山迫 淳介¹ (1. 農研機構・植物防疫部門) データベースのための証拠標本やサンプルの管理方法～農研機構病理昆虫標本館の例～</p>	<p>W2601 ○Jeremy McNeil¹, Isabel Ramirez¹, Zoe Lindo¹ (1. Univ West Ontario, Canada) Do monarch butterflies use chemical cues to location overwintering sites in Mexico?</p> <p>W2602 ○高林 純示¹ (1. 京大大学生態学研究センター) Plant-plant communication mediated by phytogenic volatile organic compounds</p> <p>W2603 ○Ted Turlings¹ (1. Inst Biol, Univ Neuchâtel) Can herbivore-induced plant volatiles be exploited for the real-time detection of crop pests?</p>	<p>W2701 ○日鷹 一雅¹ (1. 愛媛大学大学院農学研究科) 土着循環型天敵AUアソシエイトをMF戦略で活かすための基礎的研究ストラテジ</p> <p>W2702 ○吉田 睦浩¹ (1. 農研機構 植防研) 水田土壌中におけるウンカシヘンチュウ成虫個体数年次変動</p> <p>W2703 ○浦野 知¹ (1. 株式会社ペコIPMパイロット) 土着天敵利用の地域循環型システム～シヘンチュウ水田のある未来のために</p>